

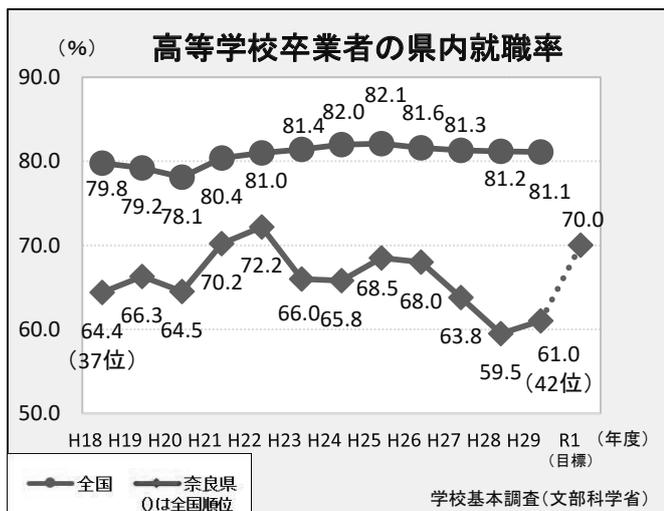
すべての人が生涯良く学び続けられる地域社会づくり

目指す姿

令和元(2019)年度までに、高等学校卒業者の県内就職率を7割以上にします。

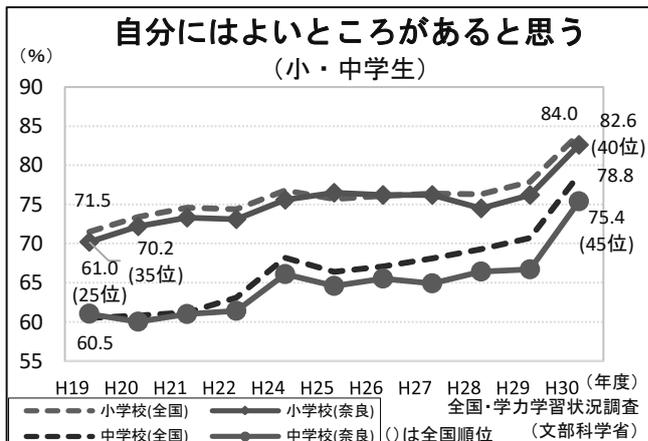
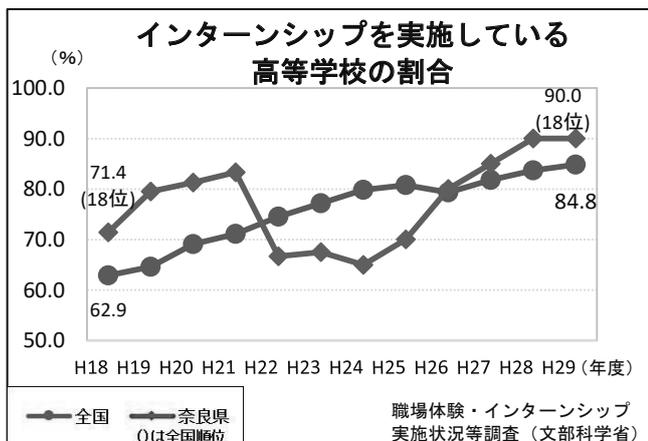
主担当部局(長)名
地域振興部長 山下 保典

1. 政策目標(目指す姿)達成に向けた進捗状況



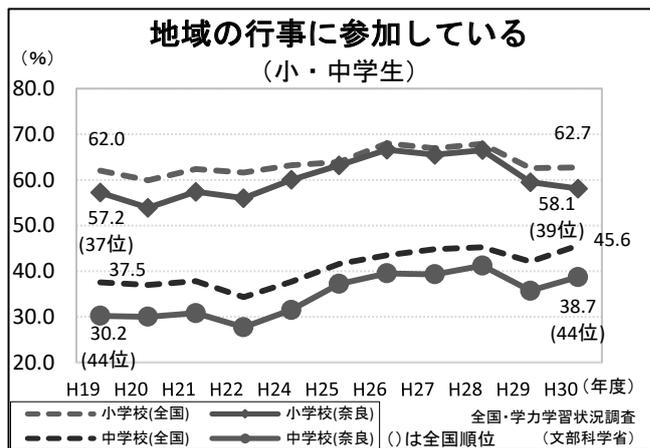
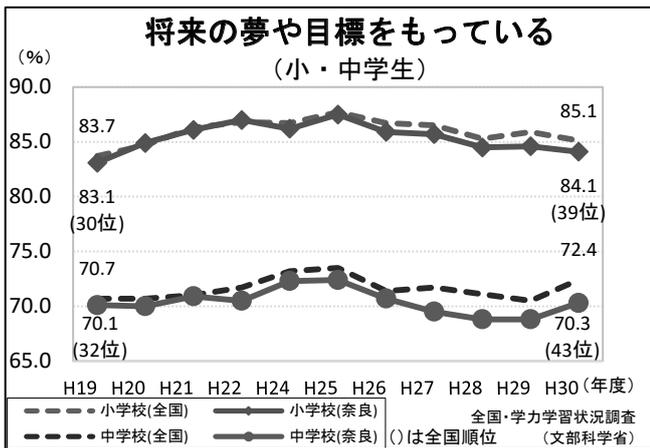
指標	高等学校卒業者の県内就職率(%)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	64.4	↓	61.0	▲60.7%	70
進捗状況	H18 (2006)	3.4 ポイント	H29 (2017)	11/13 年目	R1 (2019)
	目標達成に向けて、平成29年度は、高等学校においてインターンシップの実施等の取組を進めましたが、雇用情勢の全国的な改善傾向等の要因もあり、平成29年度の高等学校卒業者の県内就職率は平成18年度から3.4ポイント減少し、61.0%で全国順位は42位となりました。				

2. 現状分析



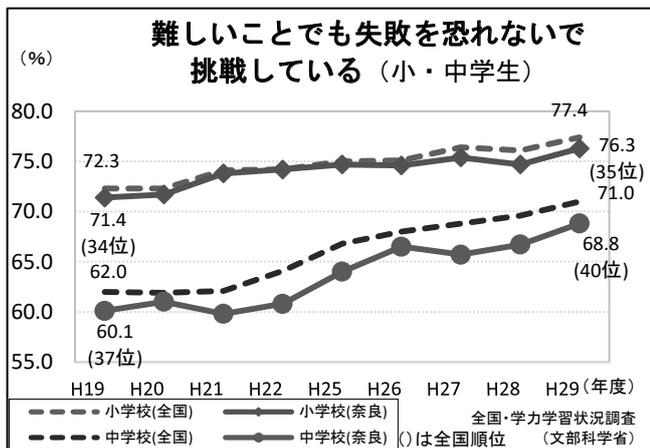
インターンシップを実施している高等学校の割合は、全国平均を下回る時期がありましたが、平成26年度以降、80%を超え、全国平均を上回っています。(→戦略1)

「自分にはよいところがあると思う」と回答する小・中学生の割合は、平成19年度から、小学生は12.4ポイント、中学生は14.4ポイント、それぞれ上昇しているものの、ともに全国平均より低い状態が続いています。(→戦略2)



「将来の夢や目標をもっている」と回答する小・中学生の割合は、依然として全国平均より低い状態が続いています。(→戦略2)

「地域の行事に参加している」と回答する小・中学生の割合は、増加傾向にあるものの、依然として全国平均より低い状態が続いています。(→戦略1)



「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」と回答する小・中学生の割合は、平成19年度から、小学生は4.9ポイント、中学生は8.7ポイント、それぞれ上昇しているものの、ともに全国平均より低い状態にあります。(→戦略1)

3. 平成29年度の評価及び平成30年度の取組等を踏まえ、令和元年度に向けて見直した内容

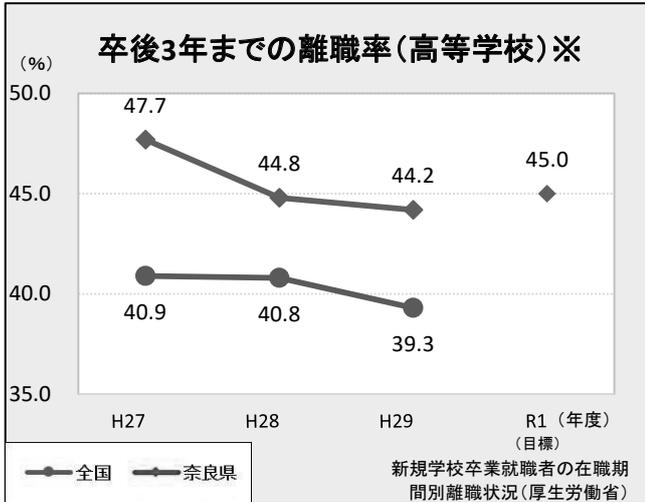
教育研究所において平成27年にキャリアサポートセンターを設置し、高校生のキャリア教育の充実を図ってきました。この結果、インターンシップを実施している高等学校の割合は、平成26年度以降8割を超え全国平均を上回っていますが、令和元年度は、県内4経済団体との連携をさらに強化し企業情報などの情報収集及びインターンシップ先の開拓に努めるとともに、新たにインターンシップコーディネーターを配置し、長期体験型就業実習を実施します。

4. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 今後の奈良県を支える質の高い職業人を育成します。

主担当課(長)名
教育政策推進課長 熊谷 啓子

戦略目標



※は数値の低い方が良くなる指標です。

卒後3年までの離職率(高等学校)※(%)					
指標	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
①	47.7	↑	44.2	129.6%	45.0
	H27 (2015)	3.5 ポイント	H29 (2017)	$\frac{2}{4}$ 年目	R1 (2019)

進捗状況 離職原因の調査、再就職支援教員の配置等の離職者対策の推進に取り組んだことにより、平成29年度の卒後3年までの離職率(高等学校)は平成27年度から3.5ポイント改善しました。

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
② 職場体験を実施する学校の割合(中学校)(%)	学校・家庭・地域の連携・協働の取組の充実等により実績値は基準値から3.8ポイント増加して100%となり、目標達成に向けて進捗しています。	96.2	↑	100	H30 全国平均(98.9)を上回っています	R1の全国平均以上
		H26 (2014)	3.8 ポイント	H30 (2018)		
③ 卒業までにインターンシップを体験した生徒の割合(高等学校)(%)	実学教育の取組の充実等により、実績値は16.1%となり、基準値から4.8ポイント増加して、目標達成に向けて進捗しています。	11.3	↑	16.1	55.2%	20.0
		H26 (2014)	4.8 ポイント	H29 (2017)	$\frac{3}{5}$ 年目	R1 (2019)

主な取組指標等

地域との連携・協働による取組の充実(①、②、③)		
コミュニティ・スクールの導入率(小・中学校)(%)		
5.2	↑	13.1
H27 (2015)	7.9 ポイント	H30 (2018)

郷土教育の充実(②、③)		
「住んでいる地域のことを学ぶ機会がある」と回答する生徒の割合(中学校)(%)		
47.8	↑	55.0
H28 (2016)	7.2 ポイント	H30 (2018)

目標達成に向けた成果

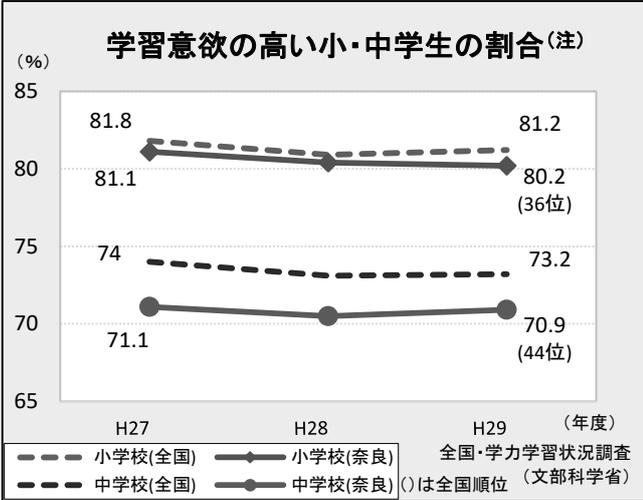
専門学科や総合学科において、高い技術力・技能の習得につながるよう、県内企業の技術者による出張授業や実習教育等を実施し、専門教育の教育内容及び設備の充実(自動一面鉋盤を吉野高等学校に導入等)を図っています。(①、②、③)

郷土への愛着を深め、郷土をよりよくしていこうとする態度の育成を図るため、小・中学校において「郷土学習の手引き」を作成・配付し、その活用を推進したこと等により、「住んでいる地域のことを学ぶ機会がある」と回答する児童・生徒の割合が平成28年度より7.2ポイント増加しました。(②、③)

戦略2 学びのステージや本県の教育課題に応じた教育を進めます。

主担当課(長)名
教育振興課長 山口 真和

戦略目標



(注)学習意欲の高い小・中学生の割合
… 学習意欲に関する4項目に肯定的に回答した小・中学生の割合

学習意欲の高い小・中学生の割合(%)					
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
指標① 小学生	81.1	↓	80.2	H29 全国平均(81.2) を下回っています	R1の 全国平均 以上
	H27 (2015)	0.9 ポイント	H29 (2017)		
中学生	71.1	↓	70.9	H29 全国平均(73.2) を下回っています	R1の 全国平均 以上
	H27 (2015)	0.2 ポイント	H29 (2017)		

進捗状況
奈良県学力・学習状況調査の結果分析による課題の検証や、各学校における学習意欲の向上を目指した授業改善の推進のほか、「家庭学習の手引き」の活用促進等の取組を進めましたが、学習意欲の高い小・中学生の割合は、小学生で0.9ポイント、中学生で0.2ポイント低下しました。

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
② 男子小学生の体力合計点(点)	教員の指導力向上や教材教具の工夫により体育授業の充実を図るなど、児童の体力・運動能力、運動意欲向上の取組を行った結果、実績値は基準値から男子小学生で0.23点、女子小学生で0.82点それぞれ増加し、目標達成に向けて進捗しています。	53.66	↑	53.89	H30 全国平均(54.21) を下回っています	R1の 全国平均 以上
		H27 (2015)	0.23 点	H30 (2018)		
③ 女子小学生の体力合計点(点)		54.60	↑	55.42	H30 全国平均(55.90) を下回っています	R1の 全国平均 以上
		H27 (2015)	0.82 点	H30 (2018)		

主な取組指標等

インクルーシブ教育の推進(①、②、③)		
個別の教育支援計画を作成する学校の割合(小学生)(%)		
58.1	↑	93.4
H26 (2014)	35.3 ポイント	H29 (2017)

安全・安心で質の高い教育環境の充実(①)		
公立小中学校の普通教室の空調設備設置率(%)		
6.1	↑	21.9
H26 (2014)	15.8 ポイント	H30 (2018)

目標達成に向けた成果

平成30年2月策定の「奈良県版就学前教育プログラム」について、モデル園における実践検証を進めながら、国の新教育・保育指針に基づき、県立教育研究所が中心となってブラッシュアップを行い、平成30年度末にこのプログラムを改訂しました。(①)

公立小中学校の普通教室への空調設備設置に取り組む市町村に対し、県が緊急的に財政支援を行うこととしました。それにより令和元年度には、空調設備設置率はほぼ100%になる見込みです。(①)

未来の奈良県教育を担う人材育成を目的として平成30年度に奈良県次世代教員養成塾を開始し、6年間を通じて資質・能力を育成します。現在75名が1期生として在籍し、全10回の講座を受講しています。(①、②、③)

5. 令和2年度に向けた課題の明確化

目指す姿(再掲)

令和元(2019)年度までに、高等学校卒業者の県内就職率を7割以上にします。

<奈良県の持っている強み>

- 1 「奈良モデル」やエビデンスベーストの行政を推進
- 2 学校・保護者・地域が協働し、地域の教育力を高めるための仕組みづくりが順調
- 3 子どもの体力は順調に向上
- 4 歴史文化資源が豊富であり、国宝・重要文化財件数は全国3位
- 5 小・中学校合同で授業研究を行う中学校区の割合が増加
- 6 住んでいる地域のことを学ぶ機会があると回答する児童生徒の割合の増加
- 7 いじめの認知件数は、積極的認知に向けた取組により認知件数が増加

<奈良県の抱えている弱み>

- 8 授業以外に全く勉強をしない子どもが多いなど、家庭での学習習慣が二極化し、学習意欲の高い小・中学生の割合が全国平均以下
- 9 「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」等、子どもの自己の意識・意欲が全国平均より低い
- 10 高校生の英語力が全国平均以下
- 11 若年無業者率や卒業後3年以内の離職率が高い
- 12 学校における教育用・校務用コンピュータの整備率が全国平均以下
- 13 県立学校施設の耐震化率は100%を達成していない

<奈良県への追い風>

- a 学習指導要領の改訂
- b グローバル化やIT化・技術革新の進展
- c 子ども・子育て支援制度の進展
- d 障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり等共生社会の進展
- e 長寿・成熟社会の到来
- f 県民は「子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと」「地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること」「地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること」を望んでいる
- g 国全体の働き方改革を推進するための関係法律の整備

<<強みで追い風を活かす課題>>

- [重要課題]**奈良県教育振興大綱の実行(奈良県総合教育会議、奈良県教育サミットの開催)
(1,2,3,4,5,6,7,a,b,c,d,e,f)
- [重要課題]**奈良県立大学附属高等学校の設置(4,a,b)
- [重要課題]**いじめ防止対策の推進(2,7,f)
- ・子どもの体力向上(3,a)
 - ・インクルーシブ教育の推進(2,c,d,f)

<<弱みを踏まえ追い風を活かす課題>>

- [重要課題]**学校における働き方改革の推進(8,9,10,11,12,a,b,g)
- [重要課題]**ICT教育環境の整備(8,12,a,b)
- [重要課題]**就学前教育の推進(8,9,a,c,f)
- ・グローバル教育の推進(10,a,b)
 - ・安全・安心で質が高い教育環境の整備(12,13,a,b,f,g)

<奈良県への向かい風>

- h 人口減少・児童生徒数の減少
- i 南部東部地域の過疎化
- j 県外就業率が高い
- k 県民の地元への愛着度は減少
- l 小・中学校の小規模化
- m 教員の年齢構成の二極化
- n 核家族化・単身世帯率の増加

<<強みで向かい風を克服する課題>>

- [重要課題]**郷土教育の充実(4,6,i,j,k)
- [重要課題]**学校・家庭・地域の連携・協働体制の一層の充実(1,2,h,i,k,l,m,n)
- ・へき地教育の充実(1,5,h,i,l)

<<弱みを踏まえ向かい風に備える課題>>

- [重要課題]**教職員の資質・能力の向上(8,9,10,11,12,h,i,l,m)
- [重要課題]**実学教育の推進(11,i,j)
- ・子どもの学ぶ意欲の向上(8,9,10,h,n)
 - ・社会保障教育の推進(11,k)

6. 平成30年度の評価及び令和元年度の取組等を踏まえた、令和2年度以降の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
奈良県教育振興大綱の実行(奈良県総合教育会議、奈良県教育サミットの開催)(戦略1.2)	現行の奈良県教育振興大綱に基づく取組等について評価・分析のうえ、令和元年度に(仮称)第2期奈良県教育振興大綱を策定し、定期的にその進捗状況を点検、評価して奈良県総合教育会議や奈良県教育サミットに報告し、次の取組に反映させるPDCAサイクルを実行します。
奈良県立大学附属高等学校の設置(戦略2)	地域社会及び国際社会で活躍するための基礎となる資質や能力を身に付けた人材を育成するため、奈良県立大学附属高等学校を設置します。
いじめ防止対策の推進(戦略2)	「奈良県いじめ防止基本方針」(平成28年3月策定)に則り、引き続き、いじめ防止及び早期発見に取り組めます。また、スクールカウンセラーの配置や学校教育相談コーディネーターのスキルアップを図り、学校での教育相談体制を強化します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
学校における働き方改革の推進(戦略1)	国全体の働き方改革推進の動きを受け、奈良県では「学校における働き方改革推進会議」を設置して、公立学校における業務改善や勤務時間管理等に係る取組に関する方針を策定し、教職員の働き方改革を推進します。
ICT教育環境の整備(戦略2)	県立学校における校務支援システムを本格的に始動させるとともに、小・中学校においても各市町村教育委員会と連携し奈良県域統合型校務支援システムの普及を図ります。また、高度情報化やグローバル化にともない、教員の情報活用能力の向上を図るため、ICTを活用した教育を推進する指導的教員を育成するための研修を開催します。
就学前教育の推進(戦略2)	就学前教育や幼小接続に関する研修を実施し、その成果を「奈良県版就学前教育プログラム」に反映させながら改良します。また、関係者協議会を実施し、就学前教育に関する研修体制の一元化を進めます。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
郷土教育の充実(戦略2)	全小・中学校において児童・生徒の郷土への愛着を深め、郷土をよりよくしようとする態度の育成を図るために作成した「郷土学習の手引」の活用や、高等学校における「奈良TIME」の取組を促進し、郷土教育の一層の充実を図ります。
学校・家庭・地域の連携・協働体制の一層の充実(戦略1)	複雑化・多様化する子どもたちの様々な課題解決を図るためには学校と保護者・地域が協働し、地域ぐるみで子どもたちを育む体制を確立していく必要があることから、「学校・地域パートナーシップ事業」等を実施し、学校と地域が協働した取組のさらなる充実を図ります。また、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を推進することにより、その体制の構築を図ります。

7. 平成30年度の評価及び令和元年度の取組等を踏まえ、令和2年度以降に見直す内容

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
教職員の資質・能力の向上(戦略1)	さまざまな社会の変化に対応し、生涯学び続けることが教員に求められる中、「奈良県教員等の資質向上に関する指標」(教師のキャリアステージに応じた授業力・生徒指導力等の育成指標)を踏まえた教員等研修計画に基づいて構築した研修プログラムを、教員がそれぞれの資質・能力・経験に応じて受講し、指標に基づいた人材育成を図ります。